



2014-2015年度

広島北

ロータリークラブ週報



Rotary Club of Hiroshima North
2014年11月6日発行 Vol. 1412

国際ロータリー会長 ゲイリー C.K. ホアン 氏
国際ロータリーテーマ

LIGHT UP ROTARY
ロータリーに輝きを

■会長 河本 浩一 ■幹事 合田 尚義
事務局 広島市南区松原町 1-5 ホテルグランヴィア広島 6F
TEL 082-506-0050 FAX 082-506-2530
E-Mail: hnrc@world.ocn.ne.jp URL http://www.hnrc.jp/
例会 毎週木曜日 12:30 ホテルグランヴィア広島

■本日の例会	2014年11月6日(木)	第2201回
国歌斉唱		
ロータリーソング	「奉仕の理想」	
四つのテスト唱和	職業奉仕委員会	
来客紹介	ロータリー家族親睦委員会	
地区大会個人表彰		
会員誕生日お祝い		
会長時間		
幹事報告		
委員会・同好会報告		
ニコニコ箱		
卓話時間	「ロータリー財団月間に因んで」	財団プログラム小委員会

会長挨拶 会長 河本 浩一

皆様今日は。本日に卓話を頂きます、バカラパシフィック㈱の小川様、ようこそお越し下さいました。会員一同、心より歓迎申し上げます。去る18日、19日、当年度の地区大会が、バラのまち福山で開催されました。ご承知の通り、地区大会はロータリアンが一同に介して親睦を深め、様々な活動やプログラムについて学ぶと同時に、その成果をもとに祝うセレモニーです。

本会議第1日目の会長幹事会では、朱秋龍RI会長代理より「ロータリーを輝かせるために」と題し、台湾ならではのユニークなロータリー運営と活動が報告されました。大会終了後、RI会長代理ご夫妻歓迎晩餐会が盛大に開催されましたが、私たちは早めに切り上げて、当クラブ親睦委員会主催のインフォーマルミーティングに合流することにしました。ここでは例会場だけでは果たせぬ深い仲間同士の交流が交わされ、ロータリアン冥利に尽きる楽しいひと時を過ごすことができました。親睦委員長の島本さんをはじめ親睦委員各位の友情に、敬意を表しますとともに厚くお礼申し上げる次第です。

次に、二日目の本会議のメインの記念講演では、東京恵比寿RCのチャーターメンバーの司葉子氏から女性会員によるロータリー活動の必要性が面白おかしく語られ、会場からは共感の拍手が送られていたのが印象に残りました。

プログラム進行等に若干の不手際があったりして、けっして華やいだ大会とは言えませんが、女性会員のあり方という重いテーマで、基調及び記念講演は貫かれ、それによく応えた意義のある大会として評価できました。RI会長代理の朱さんからは、男性会員の内の半数近い夫人たちがクラブ会員となることで、画期的なクラブへと躍進した事例が報告されました。それにゲイリーC.K.ホアンRI会長の夫人も昨年よりクラブ会員となって大いに活躍されています。

また、司葉子さん所属の恵比寿RCは現在、男女半々から成る異色のクラブへと成長し、新たな奉仕活動が取り組めるクラブとして注目されています。

前回例報告 2014年10月23日(木) 第2200回

ロータリーソング	「それでこそロータリー」
来客紹介	ロータリー家族親睦委員会
会長時間	
幹事報告	
委員会・同好会報告	
ニコニコ箱	
卓話時間	「歓びのかたちバカラ」 バカラパシフィック㈱ 代表取締役社長 小川 博 氏

地区大会表彰

- *2013-14年度RI会長賞
- *2013-14年度例会年間100%出席賞
- *米山記念奨学会寄付総額賞 5位
- *米山記念奨学会寄付達成クラブ 5千万



※個人表彰は表彰状が届き次第、披露します。

幹事報告

- *大船渡RCより広島土砂災害に対する支援金の目録を頂戴しました。
- *次週、30日(木)は休会です。次回例会は11月6日(木)です。
- *11月例会予定表 (BOX配布)



委員会・同好会報告

奨学育英資金特別委員会 丸本委員長
例会終了後、委員会開催3F「弥山」

ニコニコ箱

ニコニコ委員会

【自主出宝】

河本会員・中山会員・合田会員・二井本会員・佐々木会員

バカラパシフィック株式会社 代表取締役社長 小川 博 様、本日はお忙しい中、当クラブにお越し頂きありがとうございます。バカラ250年の歴史のお話を楽しみにしております。

河本会員・中山会員・合田会員・二井本会員・佐々木会員

森会員、先週の入会式にてのご入会、おめでとうございます。一日も早くクラブに慣れられ、奉仕と親睦にご活躍ください。また先日の地区大会には多数の会員の参加を頂き、ありがとうございました。また大会前日のインフォーマルミーティングを設営頂きました家族親睦委員会の皆様と参加を頂きました会員の皆様に感謝致します。

山坂会員 バカラパシフィック㈱社長の小川様、本日は卓話ありがとうございます。楽しみにしております。

山本正会員 ◆ 中国新聞社会事業団に寄せられた義援金は12億5,560万円に達して20日に終了いたしました。北RCの方々も含めて14,483件の多くの皆様のご協力を頂き、誠にありがとうございました。

山下(江)会員 RCCテレビの「イマなま!!」がリニューアルし、毎月第4火曜日午後3時20分頃から「みんなの法律相談!!」を担当することになりました。28日が第1回目です。時間のある方は観てください。

合田会員・丸本会員・岡部会員・二井本会員・島本会員 中山さん、塩本さん、地区大会前夜のラーメン、ご馳走様でした。美味しかったです。お約束どおり、お釣りの2千円を出宝させていただきます。

岩森会員 河本会長殿、この度は妻の誕生日に美しい花をお送り頂きありがとうございます。妻は非常に喜んでおりました。

島田会員 先日は妻の誕生日に素敵な花を頂きありがとうございました。

大之木会員 出張帰りのため、3分13秒遅刻しました。

当日計 20,000 円(内、web112,000 円) 累計 558,000 円

★=10,000 円 ☆=5,000 円 ◆=3,000 円 ◇=2,000 円

卓話時間

『歓びのかたちバカラ』

バカラパシフィック㈱

代表取締役社長 小川 博 氏

私どもバカラは創設して250年が経過しております。本当は250年間のことをお話させて頂きたいのですが、4時間ぐらいかかりますので、大変駆け足でございますが、幾つかお話をさせて頂きたいと思えます。

まずバカラの誕生からお話をさせていただきます。バカラとは、1764年10月16日、250年前にフランス東部ロレーヌ地方にてモンモランシー・ラヴァル司教というのが、当時の国王でありましたルイ15世より認可を受けまして、バカラ村に誕生したガラスの工場です。バカラ村は、パリから東へ約400kmのロレーヌ地方にございまして、現在でも人口が5千人にも満たない小さなところなんです。私ども



もの製品はメド・イン・フランスという前に、すべてがメド・イン、このバカラ村でございます。

なぜこのバカラ村に、バカラが誕生したのか、ガラス工場が誕生したのかということですが、三つの要因があります。まず1番目にこのロレーヌ地方が非常に当時、経済が逼迫して、モンモランシー・ラヴァル司教が、この地区の経済を立て直しをしなければいけないというところから起きたわけです。バカラの村を彼が見たところ、経済を立て直すための産業基盤が存在していたのです。

どういうことかといいますと、まず非常に豊かな森林がありました。ということは、その森林を伐採した薪が、何か産業を興すときの燃料になったわけです。二番目にムルト川という川がバカラ村に流れており、この川が当時としては大変重要な産業用水ならびに運搬手段となったわけです。

そして三番目は経済が逼迫していたことにより、製塩業、製鉄業が相次いで倒産してしまい、失業者という労働力があつたわけです。燃料があつて、産業用水があつて、労働力があつたので、ではここで何か産業を興そうじゃないかということになったのが始まりです。

ではなぜガラス工場だったのかということですが、このバカラ村というのは非常に東ヨーロッパに近いところにあります。チェコのボヘミアングラスとか、東ヨーロッパは非常にガラスが強く、それらがフランスに入ってくるものですから、外貨が流出してしまう。それではここにガラス工場を造ろうというのが、バカラのガラス工場の始まりです。

この250年のあいだに、バカラは数々の賞を受賞しております。一番大きなのは、1855年の第1回パリ万博に出品をして、この万博を始め、1867年、1878年、1889年という、世界的にも大変大切な万国博覧会におきまして、金賞・大賞を受賞しました。当時としてはマーケティングですとかコミュニケーションのツールというのは、ほとんどないわけです。ですから、この万国博覧会に出品するというのが、企業としては一番のプロモーションでした。

パリの万博で、金賞・グランプリを獲得していくことによって、バカラの名声というのが世界中に知れ渡っていくわけです。そうすると、世界各国の国家元首、王侯貴族から注文が相次ぐわけです。

注文した人にはロシアの最後の皇帝といわれていますニコライ2世、ペルシャの王様、オスマン帝国の皇帝、そして明治天皇もいらっしゃいました。

では250年の歴史のなかで、日本との関わりはというと、大阪の茶道具ならびに古美術商であった春海藤次郎という方が1903年、明治36年にバカラを初めて商業的に、日本に輸入を開始しています。

この春海藤次郎という方は、バカラのカタログアイテム、それだけの注文に飽きたらず、なんとお茶道具懐石セットを全部バカラに注文しているのです。当時バカラからのセールスマンがシベリア鉄道を通して、カムチャッカから舞鶴に降りてきて、半年ぐらいかけて来ていたようですが、そのセールスマンにいろいろ頼み込みまして、様々なお茶道具ならびに懐石の道具を作ったのです。当初、これが日本のお茶道具の世界に入っていくわけですが、こんなキンキラキンとしたものを使うのは恥辱であると、彼は非常に叩かれました。ところが年を経るにしたがって、この美しいフランス文化の象徴でありますクリスタルが、お茶の世界に好まれるようになって、後に「春海好み」と呼ばれるようになります。これがさらに世の中に出ていきますのは、お亡くなりになりました、先代の吉兆さんの湯木貞一ご主人が、これを懐石の道具として、懐石に使われて、日本におけるいわゆるガラス器の、クリスタルの懐石、日本料理での最初にお使いになった例かと思えます。

現在でも、前以ってお願いをすれば、嵐山の吉兆さんでありますとか、築地の吉兆さん、そして高麗橋の吉兆さんでは、この100年前の春海好みで、フルコースで吉兆さんのお食事を召しあがることができます。



さて、今度は私どものお話をさせていただきますが、日本のバカラパシフィックという、この会社ですが、設立して今年で30周年を迎えます。その間、私どもは非常に文化的な事業もやってきましたが、この「永遠のきらめき バカラ展」というのを、世界で初めて、最大規模のものを1998年から1999年、全国4カ所の美術館で開催をしまして、大成功を収めました。実は広島県立美術館でも1999年に開催させて頂きまして、大変なお客さまのご来場を頂きました。

さて、このようなバカラをずっと支えてきましたのは、当然ながらバカラの職人でございます。「最良の素材、最高の技術、そしてそれを受け継ぐこと」というのがバカラの創設者の理念でございますが、その理念に基づきまして、今日でも、250年前からのその工場で、約650人の職人が仕事をしております。

2度の世界大戦でも、ドイツに非常に近いところですから、あるときはドイツに取られ、取り返し、また取られという歴史がロレーヌ地方にあります。2度の世界大戦でも窯の火を消さなかったというのが、職人たちの誇りでもありますし、親子3代にもわたる職人、そして職人から職人に技術の継承が行われております。このように、すべてがバカラ村での手作りで行われている、類いまれなる職人の技術を持っているかと思えます。

そしてそのバカラの職人のなかに、M.O.F、Meilleurs Ouvriers de Franceという、フランス最優秀職人の称号があります。これは1924年にフランス政府が、フランスの伝統工芸・技術の維持・育成のために制定した称号でして、3年に1度コンクールが行われます。どういふ分野で行われるかという、60分野ぐらいありまして、例えばゴブラン織りの職人であるとか、チーズ作りの職人、それからシェフ、それから靴作りの職人とか、3年に1度コンクールが行われて、そこで優勝というか入賞した人には、エリゼ宮殿でフランス大統領自らが勲章を授与するという、日本の人間国宝に匹敵したものです。

なんとバカラ社は、この制度ができてから今日まで、56名という多くの受賞者を輩出しておりまして、今日でも工場において受賞者22名が在籍して、仕事をしております。

さて、1764年に誕生したガラス工場だというふうに申しあげましたが、ガラスとクリスタルとはどう違うんだというところで、クリスタルとはどういふものかということをお話をします。

実はクリスタルの誕生といえますのは、1676年にイギリスのガラス職人ラヴェンス・クロフトが試行錯誤の結果、酸化鉛を溶剤として使用したことで生まれたとされています。

どういふことかと申しますと、その当時、17世紀のころ、イギリスでもガラスを溶かす燃料として木材が使われていました。イギリスはその当時、植民地政策を推進していたので、海軍を増強しなくてはいけなかった。海軍は船を大きな木材で造っていたので、その時のジェームズ国王が、この木材をガラス等の材料を燃やすのに使ってはダメだと、船を造れということになったわけです。それと

同時に石炭が出てきて、石炭あるいは悪質のロックスでガラスの材料を溶かすことになったわけです。

そうすると、いろんな化学変化が起こりまして、有毒ガスが出て、ガラスの材料に入ったりして、汚いガラスが出てきたりしたわけです。いろんな溶剤を試行錯誤で使っていましたが、このラヴェンス・クロフトが、酸化鉛を入れたのです。出来上がったガラスを見たときに、周りの職人から歓声が上がると、非常に透明感の強いガラスが出てきたわけです。これをもってクリスタルの誕生としているわけです。

バカラ社は1816年、ですから会社ができるから50年たつてから、このクリスタルを製造開始しています。イギリスでクリスタルが誕生してから150年経ってから、フランスでクリスタルが生まれています。この150年の差はなんなんだと、これは当時の国力の差です。豊かであったイギリスに比べ貧しかったフランスが、この技術をなかなか取り入れられなかったということがございます。

クリスタルの定義とは、1971年、今のEUの前身でありますECによって、行政命令が發布されています。どういふことかといえますと、酸化鉛の含有量が24%以上なくてはいけない、屈折率が1.545以上なくてはいけない、そして比重が2.9g/cm³以上なくてはいけない、この基準を満たしたもののみが、国際的にはクリスタルガラスというふうに呼ばれるわけです。

さて、バカラのワイングラス等のコレクションで、いろいろなものがございますが、一つ代表的なアルクールについて、ご説明をさせていただきます。実はこのグラス、1840年、今から174年前の時のフランスの国王、ルイ・フィリップ王の公式グラスとして作られたものです。大変美しいグラスだと思いますが、実は今日現在でも、アルクルールのコレクションとして世界中で販売しております。

どういふことかといえますと、173年前にデザインしたものが、今日でも世界中のベストセラーになっていると、これがバカラの存続している一つの要因であるかと思えます。バカラのデザイン性です。

また、クリスタルのブランドとして初めて香水瓶を制作したのもバカラで。20世紀にちょうど入った頃に、フランスでもようやく女性の社会進出が進み、女性は何をしたかという、自分の個性を表現するために、いろんな香水を着けるようになった。だったら、香水だけでなく、その瓶も個性的なものを作ろうということで、バカラは多くの香水瓶を作りました。

さて、今年250周年ということで、色々な催し物をバカラは計画していますが、一つお話をしたいのは「THE LEGEND OF CRYSTAL」という、バカラの大回顧展というのが、パリのプレイ・パレ美術館で先週から始まりまして。来年の1月4日まで開催されますが、先週、私も開館の日に行って参りましたが、本当に素晴らしい展示会が行われております。

バカラ250周年を記念いたしまして、バカラの職人の卓越した技術を物語る制作、傑作の数々、約600点を展示しています。これは本当に、これを見に行くためにもパリに行く価値がある、というぐらいの展示会になっていると思います。1月4日までこの美術展を開催しておりますので、ヨーロッパにご出張ならびに休暇でというふうなご計画がありましたら、ご覧になって頂ければと思います。

また恵比寿ガーデンプレイスのバカラのシャンデリアというのは、ご存知でしょうか。実は恵比寿ガーデンプレイスで、世界最大級の250の電気が点くバカラのシャンデリアを、ここ17年間ぐらい、11月から1月の頭まで、展示しています。毎年300万人の方がご覧になっていただいている、東京のもう冬の風物詩としてなっております。今年そのシャンデリアを新たに、日本のオリジナルで作りました。今までのシャンデリアは250の電気がついて、高さ5m50cmありましたが、これはなんと高さ、8m40cmです。電気の数も、全部LEDにし、250灯ではなくて、410の電気が点きます。11月8日に大点灯式を行いまして、1月の頭まで飾っておりますので、これも是非ご覧になって頂きたいと同時に、これは実は商品

ございまして、売り物でございます。別に410の電気を点けたからというわけではないのですが、実は4億1,000万円ということになっておりますので、是非私自らデリハリをさせて頂きたいと思っております。



最後に皆さま方に、お礼と報告をしておきたいのが、実は30年前に私どもの会社が日本でできまして、そのときは世界で13番目のマーケットで、世界の市場の約3%でした。

設立当初は、なかなかやはり困難がございまして、バカラの文字をちゃんと読んで頂けなくて、バカ、バカラットとかですね、当時これは本当にあった話ですが、週刊誌でこういう記事が出るわけですね。ある暴力団の組長がバカラ賭博で逮捕と、彼はいつも銀座でバカラを飲んでいました。

どういふことかといひますと、バカラを飲んでいたという意味は、コニャックですとか、あの瓶をバカラが作っていますので、クラブなんかへ行くと「バカラ入れてくれ」というのは、コニャックを入れることであつたりとか、当時、お客さまが来られて、なんだ、バカラっていうのは酒じゃないのか、瓶なのかとおっしゃられたこともありますし、当時花瓶を一生懸命売ろうと思ひましたらば、「なんだ、この花瓶は茎が見えるじゃないか」と言われるわけですね。どういふことかといひますと、日本の習慣では花瓶というのは鉄か、竹か、銅か、陶器ですから、茎が見えてはいけなひわけですね。

あるいは、陶器も割れ物ではありますが、なぜかガラスのほうがよく割れるというふうと思ひられるのか、お祝ひに使つてはいけなひと。こんなものを結婚式の引き出物というのは、まかりならんと、おじいちゃん、おばあちゃんからお叱りを受けたり、せつかくのおめでたいものを破談になる、割れてしまふとか言われたものです。今は本当に結婚式でも大変多く使つて頂ひていますが、当時はそう

でした。

そんなこともありましたが、実は今から16年前、1998年から日本のマーケットは、バカラ社の世界のマーケットの、最大の市場になっております。最大のマーケットで、為替の変動で時々パーセントは違ひますが、なんと、約3割近くをずっと維持してあります。

ですから世界中で最もバカラが愛されている国が、この日本でございまして、長年にわたる皆さま方、日本のマーケットでのご愛顧に、この場を借りてお礼を申し上げたいと同時に、先ほど申し上げましたように、私どもは人生のあらゆる大切なひととき、すなわちこういふ言い方をしてはいけなひのかもしれないかもしれませんが、ゆりかごから四十九日までつて、私どもは申し上げているのですが、お別れの会ですとか、四十九日によくお使いいただける。仕事だけ、故人が好きだったから、この赤白でいいということで、赤い箱、赤いショッピングバッグで、お許しを頂ひたりしてあります。

そんなかたちで、私どもがこれからも努めていかななくてはいけなひのは、「歓びのかたち」を一つでも多くお届けすることだと思つてあります。250周年ということにおごらず、これからも一生懸命やつていきたいと思ひますので、今日は貴重な時間をバカラで使わせて頂き、本当にありがとうございました。

ご清聴、ありがとうございました。

この度、小川様より卓話のお礼を辞退して広島で起こつた土砂災害にお役立て下さいとのお申し出を頂きましたので、広島土砂災害支援金口座に入れさせて頂きました。小川様、誠にありがとうございました。

■出席報告 出席委員会

2014年10月23日(木) 会員数 85名
出席 71名 欠席 14名 来賓 1名
10月9日例会出席率 100%

■来客紹介 ローラー家族親睦委員会

小川 博 様(卓話来賓・東京西RC会員)

■次回例会ご案内 2014年11月13日(木)12:30~

《ゲスト見学例会実施》

卓話 「日米野球の違いとカープ」

野球解説者 高橋 健 氏

食事 幕の内

【ゲスト見学例会実施のご案内】

今年度職業分類会員増強委員会からの大切なお知らせです。この度、11月13日(木)の例会を「ゲスト見学例会」とすることとなりました。

広島北RCに入会を促進したい様な方を紹介頂き、下記の例会日にゲストとして参加頂き、広島北RCの素晴らしい雰囲気味わつて頂き、最終的に入会に結実すればと考えております。今すぐに入会出来なくても例会を見学してみたいなどの理由でも構ひません。皆様には御協力の程、よろしくお願ひ申し上げます。

実施日 2014年11月13日(木)12:30~13:30

卓話:元広島東洋カープ投手 高橋 健 氏

「日米野球の違いとカープ」

費用 ゲストの食費はクラブが負担いたします。

お申し込みは委員会または事務局に11月11日までにお願ひいたします。